「2013 年度日本不動産学会賞各賞・田中啓一賞の受賞理由」より抜粋

〔著作賞〕（学術部門）
『人口減少下のインフラ整備』

東京大学出版会　2013 年 1 月 23 日

宇都　正哲（株式会社野村総合研究所）
植村　哲士（株式会社野村総合研究所）
北詰　恵一（関西大学環境都市工学部准教授）
浅見　泰司（東京大学空間情報科学研究センター教授）

本書は、これから迎える本格的な人口減少時代に老朽化したインフラをどうマネジメントしていくべきかという喫緊の課題に正面から取り組んで議論したものである。これまでインフラの整備を議論するときに用いられてきた「効率性」「公平性」概念に加えて、新たに「持続可能性」という概念を明示的に取り入れ、その考え方を整理した点は学術上の大きな貢献と評価できる。また、計画論、主体論、リスク分担論、ファイナンス論、技術論といった幅広い内容について、研究者、ビジネスコンサルタント、弁護士*、商社といった多様なフィールドで活躍している専門家が議論を重ねた結果として、今後のインフラ整備の実務者、政策立案者、学術研究者にとって内容的に深みのある著作となっている。以上により、本著作は日本不動産学会賞著作賞（学術部門）にふさわしいものと評価できる。

弊所注*
　執筆担当
　アンダーソン・毛利・友常法律事務所
　　弁護士　赤羽　貴　　（日本不動産学会非会員）
　　弁護士　髙橋　玲路　（同上）